

2018年7月自然観察会実施報告書

2018年7月13日

文責 熊木 久美子

- 1, 実施日：2018年7月8日（日）10：00～14：30 曇りのち晴
- 2, テーマ：「シティヒルの元気な植生をたのしむ！」
- 3, コース：六甲アイランド北口～シティヒルを一周
- 4, 参加者：ビジター18名・会員25名（うち3班17名）
＜自主研修会7月1日の参加会員数は、32名＞
- 5, 配付資料：観察会ルートマップ・植生リスト
- 6, 説明リーダー：田中、中山、杉本、岩崎、（会員説明は中島）

7, 概要と感想

1週間前の自主研修では、熱中症になりそうな暑さだった。まさかその1週間後が西日本豪雨4日目の朝となるとは……。当日の7時は神戸市に大雨警報発令中。実施出来るのか、するのかという迷い。その警報も8時30分に解除された。ビジターの参加が危ぶまれるが午後からは晴れ間も出るとのことで実施を決定した。

今回初めての人工島での観察会だったことも幸いし実施に踏み切れた。

六甲ライナー利用してこられた会員の方が「知った人が誰もいなかったから日にちを間違えたのかと思った」と言いながら駅を下りて来られた。それくらい迷うような日だったが、ビジターは18名参加した。予定の10時に集合し、開始となった。

はじめの挨拶の後、3班の若手のリードによる準備体操。その後「ここ六甲アイランドは46年前に土地開発され須磨・高倉山の土砂を埋め立ててできた。街が出来て30数年、植えられた木々はここを故郷として成長している。この木々に街は、外の音や風を遮ってもらいながら生活をともにしてきている。その植物たちを今日は観察していきましょう。」との話の後、4班編制で出発した。

曇り空の中各班より順次出発し、観察が始まった。出発してまもなくの奥まったところにハマビワがあった。実は1週間前の自主観察の時に発見したものでこの近辺では珍しいものだ。クスノキ科ハマビワ属の常緑樹で、高さは7m位になるそう。ビワの葉に似て葉の裏は綿毛が密生し葉のふちは全縁でクスノキよりも縁取りがはっきりしているように思った。

小磯記念美術館の北を通り抜け、歩道橋からはいつも歩いている六甲を一望でき、西おたふく山の右手に少し低く見えるが最高峰だ等なかなか見られない景色に話が弾む。

ユズリハの話をしている班では、経験豊富なビジターの方が、大きい幹だとこれくらいになると直径30cm位を示して下さった。この辺りではなかなかそんな大きなユズリハに出会う機会がない。また、氷ノ山の方で見るエゾユズリハとはどう違うのかなあとつぶやいておられた。そ

の答えが、気になって仕方ない。エゾユズリハについて本で見ると「ユズリハの変種。枝は緑色で滑らか。多雪地では下部の枝は地を這う。葉はユズリハより小さい楕円形で葉質は薄い。花には花弁もがくもない。高さは1～3m。北海道、本州の日本海側の山地に多い常緑低木。ユズリハの葉は15～20cmと大きく側脈も多い(16～19対)。エゾユズリハの葉は10～15cm。側脈は8～10対。ヒメユズリハの葉は6～12cmと小さく、網状脈が目立つ。」とのこと。

アベリアの話をしている班では、説明の終わりにこの花をまぬけの花と言う人がいます。なぜかわかりますか。と言いながら楽しそう。また、自分で野草やネズミモチの実を使って作ったというお茶を持参した説明者は熱中症の予防にと心遣いが優しい。

南に向かって歩いていると、ビジターの方がこんなところに大きなネジバナが、と植栽された木の中から見つけられた。こんな元気のいいネジバナ見たことないと言いながら、猫のえさが残って栄養になるのかもしれない等思い思いの事を話しながら進んだ。このネジバナは1週間前に比べ少なくなっていたが、今年はこちらでネジバナがよく咲いていたらしくネジバナの当たり年だと話していた。ネジバナは螺旋状に多数の花をつけるが右巻だったり左巻だったり、螺旋になっていなかったり、この決まり事の自由さにもちょっと惹かれる。暑い中、他にもヒナキキョウ・ハナハマセンブリ・ニワゼキショウたちの姿を見ることが出来た。

正午が近くなるにつれ曇り空が真夏のような空に変わり、暑い日差しになってきた。花を落としたブラシノキ・少しだけ花を残していたアメリカデイゴがあつい日差しに映えていた。しかし、早く日陰に入りたい……。12時半、野鳥観察の東屋及びマリパークの日陰で昼食。

午後のコースは海を見ながら歩く。今回のメインの花、ハマボウがこの日に焦点を合わせたかのように黄色い花をたくさん咲かせていた。例年より早い開花だそう。神戸近辺ではあまり見ることができず、淡路島の由良に群生地があると聞く。花の形は同種のハイビスカスやフヨウ等に似ていて5枚の花弁は付け根から回旋して伸び、中心の赤褐色は船のスクリューのように見える。また、勾玉のような形の種子は海水に浸っても死なずに浮遊し、海を通して分布を広げるそう。

南国を思わせる緑の実をつけたオリーブ、ワシントンヤシ、フェニックスが南国気分を盛り上げていた。マリパークで全員集合して、大阪湾フェニックス計画の話とその現状を建物の上から見てもらった。そして、中締め解散もありとして「マリパーク駅」を利用下さるようお願いした。このアイランドにお住まいの方が都合で帰られたが、体調が悪くなられたのではないと分かりほっとした。続いてたくさん赤い実をつけているベニバスモモ、人だけだった。あまりにおいしそうなので口にされるビジターさん、渋いと言って残念そうな顔。いよいよラストスパート、六甲山を見ながら北に向かう。

大きな鈴のような実をつけたトチノキ。今日は、ホルトノキの白い花を見ることも出来た。暑いので東公園の東屋で班ごとの解散となった。センター駅へ向かう方が少し近道とのこととそちらに向かう方が多かったが律儀に北口へ向かわれる方もおられた。

今回は、木本・草本それぞれ100種以上の確認ができご協力下さった方々に感謝したい。そして、説明者の個性豊かな説明に参加下さったビジターの方も数十年に一度の大雨だったことをすっかり忘れてしまう楽しい時間だったことと思う。被害に遭われた方々が早く日常を取り戻されるよう祈りながら……。

8, 観察した主な植物等

マテバシイ、アベリア、トウカエデ、オオシマザクラ、スズカケノキ、モミジバフウ、クロガネモチ、ネムノキ、ワシントンヤシ、フェニックス、ヤマハギ、イスノキ、クチナシ、ピラカンサ、ヒメユズリハ、アメリカデイゴ、ブラシノキ、ハマボウ、ベニバスモモ、クロマツ、ナンキンハゼ、トチノキ、ユリノキ、ホルトノキ、ヤマモモ、スダジイ、セイヨウキンシバイ、オリーブ、タブノキ、ハナハマセンブリ、ネジバナ、クスダマツメクサ、ヘラオオバコ、アオカモジグサ、メドハギ、チガヤ、ブタナ、シナダレスズメガヤ、アレチヌスビトハギ、ユウゲショウ、タイワンハチジョウナ、ミチバタナデシコ、トゲチシャ、カモジグサ、ノゲシ等。

(六甲アイランド及び大阪湾フェニックスについての簡単な説明を実施)

9, 当日の様子と代表の植物



ハマボウ



ネジバナ



ハマビワ